

一般財団法人新潟県建設技術センター
平成30年度 研究助成事業

『八十里越明治新道・中道・天保古道に関する調査研究整備事業』報告書

平成31年3月20日
特定非営利活動法しただの里

はじめに

山岳縦走ファンや史実研究者、歴史小説ファン等に人気のある八十里越は近年の大水害や豪雪により、多くの破損箇所が生じ危険なルートとなっている。しかし、最近の登山人気や平成30年の戊辰戦争終結150周年等の機運から益々注目が集まっており、多くの観光客が軽装で八十里越に足を踏み入れており、山岳事故を心配する声が上がっている。

そこで、八十里越ルートを専門家と共にトレッキングしながら調査・研究して、安全に楽しめるコースを整備、掲示・広報し、多様な観光客の安全性を向上させつつ誘致促進することで地域の活性化を図ることを目的として実施した。

背景や必要性

八十里越は、新潟県の三条市から福島県の南会津郡只見町に至る街道および峠である。この街道は司馬遼太郎の小説『峠』の舞台となったことや、河井継之助の「八十里こし抜け武士の越す峠」の狂句などで知られる歴史山道である。

八十里越には従来三本のルート「明治新道・明治中道・天保古道」があるが、現在往来に使用されているのは「明治新道」である。しかし、平成16年の7.13水害や平成23年の7.29水害に加え、近年の豪雪で多くの破損箇所が生じ、現在は危険の多いルートとなっている。

一部の山岳縦走ファンや歴史マニアには全国的に人気のあるスポットであるが、平成27年にリニューアルオープンした施設『吉ヶ平自然体感の郷』の集客効果や「平成30年戊辰150周年」の機運で、多くの一般観光客が軽装で八十里に足を踏み入れていることで、地元では山岳事故を心配する声が上がっており、ルートの調査、研究、再整備が課題となっている。

事業の内容とその特徴

当団体は、八十里越を含む下田地区のグリーンツーリズムの活性化を目的に平成24年に設立。主な活動としては、親子を対象にふるさとの魅力を体感学習する子ども観光大使養成事業やただ自然体験観光ガイド養成事業、山里・吉ヶ平にブナ苗等の植樹をする里山整備事業など。

当事業では、従来八十里越の整備にあたってきた吉ヶ平保存会など下田地区のコミュニティ団体や八十里越を保有管理している行政や福島県の只見町など、各関係機関とも丁寧な連絡調整を図り、先ず「明治新道」の破損箇所を調査・整備しつつ、次に「明治新道」と交わるように巡っている「明治中道」と、天保に開削された「天保古道」を調査・整備することで、新道・中道・古道を一体的に再整備し、新道・中道・古道を繋げた新たなトレッキングコースを設定して、方向指示標識・歴史解説標識・警告標識等を設置し、一般観光客も安全に楽しめる新たなトレッキングコースを整備するとともに、八十里越ルート安全ガイドマップの作成・配布により、多様な観光客を誘致促進することで地域の活性化を図る。

また、専門家や関係者を交え八十里越をテーマにしたフォーラムを開催する事で、当事業の内容を広く県内外に広報し、八十里越の魅力と事業の意義をアピールして、地域や関係機関の理解と協力の基盤を強化する。

更に新潟・福島両県を結ぶ国道289号「八十里越道路」の通行不能区間の解消は、長年三条市と只見町の悲願であると共に両市観光による交流人口増加の起爆剤として期待されており、八十里越の活性化は、国道289号の早期開通の機運を高める重要な事業である特徴がある

◇平成30年度八十里越ルート整備・調査実績

ルート整備

- ・5月～6月期間 除草・倒木撤去作業（吉ヶ平管理組合委託）
- ・9月～10月期間 除草・倒木撤去作業（吉ヶ平管理組合委託）

ルート調査

- ・5月21日 八十里越～大白川 古道調査
参加者 大竹晴義 高木昭 長谷部忠夫 浅井拓也
- ・9月15日 戊辰戦争終結150周年記念八十里越走破 23名
協力：八十里倶楽部、吉ヶ平管理組合

整備 “吉ヶ平の自然とふれあおう！”

- ・7月1日(日) 午前9:00～午後1:00
吉ヶ平自然体感の郷に現地集合し、地域の親子で吉ヶ平の自然観察をしながら整備 参加人数 21名

◇調査結果の概要

ルート調査においては、数年前に設置したルート上の案内看板や矢印等が、豪雪や山崩れ、草木の繁茂により壊れており、新たに制作した看板や矢印等を再設置した。

また、歴史調査・研究では、河井継之助など戊辰戦争時に長岡藩がどの様に八十里越に関わり、どのルートを辿ったかに加え、新たに、政治家の西潟為蔵や瞽女の小林ハルなどの足跡を掘り起こし、次年度以降の調査・研究事業に繋がるテーマや課題を発見することができた。





◇八十里越フォーラム 2018 「八十里越と西潟為蔵」

日時：平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）

午後 1 時～3 時 20 分（会場・受付：12 時 30 分～）

会場：燕三条地場産業振興センター

リサーチコア 7F マルチメディアホール

・第一部（午後 1 時～1 時 30 分）

「八十里越ルート整備・調査」 「八十里を越えた人・最後の瞽女」

NPO 法人しただの里 理事長 大竹 晴義氏

・第二部（午後 1 時 35 分～2 時 35 分）

「八十里越と西潟為蔵」

駒沢女子大学 教授 弥久保 宏氏

・第三部（午後 2 時 45 分～3 時 20 分）

パネルディスカッション

ゲスト：元 NHK エグゼクティブアナウンサー・NPO 法人日本トレッキング協会会長

國井 雅比古氏

パネリスト：駒沢女子大学 教授 弥久保 宏氏

NPO 法人しただの里 理事長 大竹 晴義氏

入場者数：196 名 スタッフ 20 名 計 216 名



◇ “ただ郷の大自然を楽しもう！！” ただ郷満喫ガイドブック作成



成果

大自然や歴史ロマンが詰まった魅力あるトレッキングコースを再整備する当該事業の実施により、幅広い世代がより安全に八十里を訪れることができる様になった。

それらの情報を各種マスメディアへのプレスリリースやSNS、会報などで積極的に情報発信し、全国の山岳縦走ファンや歴史マニアの他、近年増加しているトレッキングファンの山ガールやシニア層など、県内外から多くの観光客を誘致促進することができた。

また、戊辰150周年の記念イベント等とも連携し、国道289号の早期開通の機運を高めるとともに、八十里越の入口である吉ヶ平自然体感の郷の来場者数増加に貢献できた。

- 八十里越や吉ヶ平自然体感の郷を案内するシニア観光ガイドに対し、調査研究整備の内容を研修し熟知してもらうことで、シニア観光ガイドが、観光客を安心して案内できる基盤整備に寄与できた。
- 特定非営利活動法人新潟夢みらいネットや特定非営利活動法人NPOさんじょうなど、多様な組織との協働により、各種大会や自然体験イベントなどを誘致し、八十里越を切り口にした下田地区のグリーンツーリズムの活性化を図ることができた。
- 八十里越ルートの特極に位置する福島県只見町側の関係団体とも連携・協力し、八十里越ルートの継続した保全に取り組む体制を強化できた。

まとめ

当事業では、従来八十里越の整備にあたってきた吉ヶ平保存会など下田地区のコミュニティ団体や八十里越を保有管理している行政や福島県の只見町など、各関係機関とも丁寧な連絡調整を図った。

先ず「明治新道」の破損箇所を調査・整備しつつ、次に「明治新道」と交わるように巡っている「明治中道」と、天保に開削された「天保古道」を調査・整備することで、新道・中道・古道を一体的に再整備し、新道・中道・古道を繋げた新たなトレッキングコースを設定して、方向指示標識・歴史解説標識・警告標識等を設置し、一般観光客も安全に楽しめる新たなトレッキングコースを整備した。

更に、八十里越ルート安全ガイドマップの作成・配布により多様な観光客を誘致促進することで地域の活性化を図った。

また、専門家や関係者を交え八十里越をテーマにした八十里越フォーラム2018「八十里越と西潟為蔵」を開催する事で、当事業の内容を広く県内外に広報し、八十里越の魅力と事業の意義をアピールして、地域や関係機関の理解と協力の基盤を強化することができた。